

圓覚寺 護持会会報

文殊

令和6年 新春号



秘仏文殊菩薩尊像

文殊菩薩尊像縁起

縁起によれば、文殊菩薩尊像は丹後切戸（天の橋立）にある文殊菩薩と同じ仏師、即ち天竺の毘須羯摩の作と伝えられています。

令和6年 第13号

令和6年度の主な行持予定

- 1月 1日(月) 修証会 (元朝互礼会) 10時・11時
12日(金) 大般若法要 (大般若経六百卷の転読祈願法要)
2月 15日(休) 涅槃会 (お釈迦様ご命日)
3月 18日 (予定) 圓覚寺彼岸会 (春彼岸入り)
30日(出) 圓覚寺護持会決算・予算会
日 西国三十三ヶ所巡拝
4月 29日(月) 昭和の日・和敬会花まつり (川北・頼光寺)
5月 8日(火) 降誕会 (お釈迦様ご誕生祭)・圓覚寺花まつり
7月 5日(金) 中丹梅花奉詠大会 (厚生会館)
6日(出) 仏教文化大講演会 (厚生会館)
23(火)~24(水) 子供禅の集い (大本山永平寺)
7月末~8月初旬 遠方棚経
7月 28日(日) 圓覚寺境内作務 (役員・会員他)
8月 1日(休) 8:30 土師観音盆供養
18:30 夜施餓鬼 (施食会連夜)
4日(日) 7:30 土師墓地お墓掃除 (お檀家一軒に一人)
6日(火) 8:15 原爆追悼平和の鐘
8月 8日(休) 孟蘭盆大施食会 (並ニ、初盆大施食会)
9日(金) 綾部(早朝)・夕陽丘・羽合・新庄・岩井・野花方面棚経
10日(出) 前田方面(早朝)・市内方面棚経
11日(日) 土師宮町区・土師新町東区棚経
12日(月) 土師新町南区棚経
13日(火) 土師町区棚経
14日(水) 孟蘭盆 (お盆寺参り、午前中本堂開放)
16日(金) 丹波大文字送り火 (法要：厚生会館)
8月 18日 (日時調整中) 地藏盆 (土師新町南、地藏堂)
8月 日 (日時調整中) 地藏盆参り (遠方)
9月 20日 (予定) 圓覚寺彼岸会
9月 21日 (予定) 彼岸参り (遠方)
10月 17日 (予定) 仏教振興会研修旅行
11月 日 秋の西国三十三ヶ所巡拝
12月 8日(日) 釈尊成道会、未修年忌供養等併修
13日(金) 大すす払い
31日(火) 除夜の鐘・歳末調経
毎月1日午前6時半 読経会 (朝のお勤め会) 1月・8月を除く
毎月第1・3金曜日 梅花講詠讃歌 (日時変更あり)
毎月第1・3火曜日 午前十時 寿会写経会 (日時変更あり)

圓覚寺護持会役員紹介

Table with 4 columns: Position (e.g., 総代・役員, 代表, 総務, 会計), Name (e.g., 伊東 高志, 高橋 芳友), and Address (e.g., 土師新町南).

Table with 17 columns representing different classes (e.g., 第一班, 第二班) and names of members (e.g., 佐藤 友雄, 高橋 弘正).

Table with 2 columns: Year (e.g., 令和5年没) and Name (e.g., 佐藤 友雄). Includes a note about memorial services.

新年あけましておめでとうございませう。令和6年の新年を迎え、皆様方におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より圓覚寺護持会の運営には、大変なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて、昨年の社会情勢はロシアによるウクライナ侵攻が一昨年から継続し、またイスラエルとイスラム主義組織ハマスとの戦闘勃発等、人道的な不幸な出来事や、地震、台風、集中豪雨による水害等の自然災害が各地で発生し、福知山市も土砂災害に見舞われて大江町の実家も軽微ではありますが土砂の流入被災し、撤去作業に親戚一同が汗水を流した事が記憶に残っています。個人的には、生活の一部とも言える阪神タイガースの試合に一喜一憂し、三十八年ぶりの日本一に輝いたことで一年の経過が早く感じられました。そんな中で圓覚寺本堂屋根の大改修工事が諸般の事情により着手出来ませんでした。いよいよ本年早々に仮設足場の設置工事が着手される予定です。天候に恵まれ安全第一でゼロ災害にて工事が完了される事を祈っております。

発行所 圓覚寺護持会会報編集部 住所/京都府福知山市土師一七七七 電話/〇七七三(二七) 四四四七

【編集後記】

迎春



住職 成田 大航

檀信徒の皆様におかれましては、佳き初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

コロナが終息した後は、いままでもマグマのように溜まっていた経済活動が一気に盛り返し、世界が手を取り合ってコロナで傷ついた社会を元に戻してくれるものと思っていました。ロシアによるウクライナ侵攻、いまだに繰り返される宗教戦争と、情けなくなるほど悲しい私たち人間の愚行にあきれ果てます。爆弾の先には何の罪もない子供やお年寄りがいるという想像力がなくなり、憎しみは憎しみを生み、毎日の死者の数を聞いても無感情になってしまっている事に救いの無さを感じます。

本堂大屋根の大改修につきましては、なかなか工事着手まで大変でしたが、昨年末から足場のパイプ組立が始まり、順次進められる予定にはなっております。この間総代様・運営委員様には大変ご苦勞をお掛け致しました。特に伊東筆頭総代様には計画前からの関わりもあり、一通りのめどがつくまではと大変ご無理をお願いして総代職を続けて頂いております。兎に角ご健康第一にと願うばかりです。

死後のストーリーを持つこと

昨年亡くなった元東京都知事の石原慎太郎氏は、亡くなれば虚無、戒名無用といってお葬式もされなかつたということでした。ご自宅も解体され、生前愛された湘南の海に遺灰を捲くようにと遺言され、死んだら何もなくなるという考えを徹底されたようです。そこまで徹底した方は少ないですが、「死んだら何も無くなる」とおっしゃる方が増えているように感じます。逆に言えば、多くの日本人は、「死んだ後何も無くなるのではない」という死生観を持っているように思います。死後の証明は誰も出来ませんし、する必要も無いのですが、「死んだら何も無くなる」ほど辛く悲しい事はありません。

新年明けましておめでとございませす



代表総代

伊東 高志

令和六年の新年を迎え、檀信徒の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃、円覚寺護持会に対しましては大変ご理解、ご協力又ご支援を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて新型コロナウイルスも漸く落ち着きの様相を呈して、四年振りにコロナ以前の状態でお正月を迎えられた事本当にうれしく思います。それでもまだ完全な終息には至っておりませんし、コロナに変わってインフルエンザをはじめ咽頭結膜

或る日本の精神科のお医者さんが友人のアメリカ人医師から言われたそうです。「大切な家族を亡くした時、その喪失感に相当なもので耐えがたいのだけれど、日本には位牌や仏壇というものがあり、喪失感を癒やしてくれていて羨ましい」と言われたそうです。私たちは「死んだからといって何も無くなるのではない」から位牌を作り仏壇にお参りを致します。古く日本の死生観では、人は亡くなって「旅」に出ていると考えたようです。「死後の旅」を生前に経験する為に巡礼という行があり、死に際に迷わないころの準備をしていました。死後のストーリーを持つているかどうかは、生きている今を安心して暮らすために必要なことでもあります。



熱(プール熱)等ウイルスによる他の病気が流行している様です。一方地球規模で温暖化による急激な気候変動によって大規模な自然災害(台風の巨大化、線状降水帯、干ばつ、森林火災等)があちこちで発生し大変大きな被害を蒙っております。又ウクライナ戦争やイスラエルでの紛争のように人為的な衝突で多くの人々が日々悲惨な状態に置かれている現状などを見ますと、我々人間が生活している地球自体も何となく住みづらい環境に陥って、これからの生末を危惧せざるを得ないような感じになります。小さい時に読んだある空想科学の本に誰かが書いていた「いつかは人類も地球環境が悪くなり地球に住めなくて月や火星に移住することに成り兼ねない」と言う記事を子供心に読んだことをふと思い出しました。環境がもっと悪い方向に進めばその時書いてあった通り人類の宇宙への移住が、まんざら数十年後ぐらいに現実になるかも知れないなとすごいことを想像したりしているこの頃です。ただいい環境の元での宇宙移住であればそれはすばらしいことですが……。

さて話が反れてしまい現実に戻りますが、ここ数年新年の護持会からのご挨拶と言え、ばほとんど円覚寺本堂の改修工事の件で、今までの計画の説明やら資金調達をお願い

等を書き留めてまいりました。今年のご挨拶もこの工事についての経過を少しお伝えしたいと思います。皆様方の深いご理解、ご協力と厚いご支援で工事の着工の予定が立ち、一昨年の暮れには施工業者との間で工事契約を締結することが出来たことはすでに報告した所です。本堂が五年前に府の暫定指定有形文化財に指定されていたので、今回の改修工事に当たり昨年早々に府の文化財課に本堂改修の許可申請を提出しました。が丁度タイミング悪く昨年は国の文化庁本庁が東京から京都市に移転する年に当たり府の文化財課も大忙しとのことでこちらの提出書類に目を通す時間はないし、下見(打ち合わせ)もいつになるか分からないとの返事でした。これには少し困りましたが、何とか昨年六月一日に府文化財課市教育委員会・施工業者と準備委員会寺院との下見(合同打ち合わせ)を実施することが出来たのですが、そこで提出書類について府文化財課との考え方の違いが指摘されました。具体的には屋根瓦は石州瓦いぶし色を使用すること、しかも使える瓦は出来るだけ再利用すること、正面のガラス戸は木製にすること、鬼瓦は現状のものを使用すること、畳も井草仕様にすること、又本堂の基礎部分でのコンクリートは使用不可等などの指摘を受け



上空からの円覚寺全景

た訳です。そこでこの様な条件下では金額的には相当予定よりも高く工期も長くなりそうなので、助成金をこちらから遠慮すれば多少は条件が緩和されるとの情報を知り、助成金については遠慮すると言う結論を出しました。そのことを前提として準備委員会施工業者と文化財課との間で変更合意点を見つけながら工事を進めることに合意しました。従って今までの計画を一部見直した為工事の着工予定が三ヶ月ぐらいの遅れになり、その遅れをカバーする為仮設足場も本堂全体を覆う工法を取り入れることにして、昨年の十二月ごろ工事に取り掛かることに致しました。本堂の改修を計画してから九年近く経ち、その間紆余曲折、賛否両論、叱咤激励ありましたが、何とか檀家様のご理解ご協力とご支援のお陰でここまで来られたことに対して役員一同心から感謝の気持ちで一杯であります。まさに令和六年の新年に当たりこの大工事の無事と完成を心より願ってやまない気持ちであります。完成予定は令和六年度中になると思いません。その間お寺に来られる時は何かとご不便ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願い申し上げます。年初に当たり、菩提寺のご家族の皆様檀家様各位のご家族の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。 合掌

「秘仏文殊菩薩尊像」 ご開帳について

開創当初より、文殊様をお祀りするお堂（文殊堂）があったことから、圓覚寺に伝わる最も古い仏像（秘仏）で、お寺が開創される前からお祀りされていたと伝えられ、江戸時代には盛大にご開帳のお披露目をした記録が残っています。文殊堂の老朽化により、戦後にご開帳が途絶えていましたが、平成20年の開創400年祭を機に再開を致しました。

令和7年にご開帳の年に当たり、総代さんとも準備の話を進めているところです。



【古文書に残されているご開帳の記録】

- 元文2年(1737) 10月 為本堂供養文殊御開帳
- 寛延3年(1750) 9月 為文殊堂供養文殊御開帳
- 宝暦4年(1754) 9月16日より22日迄御開帳
- 明和4年(1767) 閏9月1日より7日間御開帳
- 寛政8年(1796) 3月2日より8日迄御開帳
- 文化13年(1816) 3月23日より27日まで御開帳
- 是以後は17年目毎に御開帳となる
(土師村・万代萬日記による)

【ご開帳立札】

圓覚寺境内に古来よりある文殊菩薩の御開帳を、来る文化13年(1816)の3月23日より27日迄の5日間執行致します。

【ご開帳立札の場所】

- (1) 圓覚寺門前 (2) 才の木(綾部街道筋)
- (3) 蛇ヶ端(京街道筋) (4) 下船渡
- (5) 丹後口 (6) 木村口(4)(5)(6)は現在市街地
以上6ヶ所と書き残されて居ります

【文殊堂の記録】 ● 建立年月日不詳

- 再建、享保3年(1718) 失火に遭った時、此の文殊堂のみ災厄から免れた為、時の住持仙巖が之を傷み再建
- 再々建、延享2年(1745) これまでは寺屋敷南端にあったものを、住持元嶺の時、現在の位置に屋敷替えをして建て替え。
- 修復、文化10年(1822) 住持金毛の時、瓦屋根に葺替
- 再建、平成20年(2008) 圓覚寺創建400年祭に因み、多目的施設として建て替え。

圓覚寺 ホームページのお知らせ

現代ではお寺でもホームページは必須になってきています。遠方のお檀家さんに対する発信の必要もあり、また、檀家さんに限らずどなたでもお寺にアクセスして頂けるようになっていきます。詳しい方がおられましたらアドバイスいただきますようお願い致します。

<https://www.tamba-engakuji.com/>



新春法話

心に矢は刺さらない



お釈迦様のことをさしてよく「お悟りを開かれた方」と申し上げることがあります。この「お悟り」という言葉、さて具体的にはどういうことをいうのでしょうか。

私達は例えば、急いでいてたんすの角に足の小指をぶつける、といったことがたまにあります。もちろん飛び上がるほど痛い。こんな時でも、悟られたお釈迦様は、痛みを感じにならなかつたのでしょうか。ひよっとすると悟りというのは、痛みだけでなく暑さ寒さ、日常の苦しみや不快な事全てを超越して、何も感じない状態を指すのでしょうか。

お釈迦様のお弟子の中にもそんな疑問を持つ方がいたようです。そんなお弟子の質問に、お釈迦様は矢の譬えを使われて「いや、自分も痛みを感じるのだ」と正直にお答えになりました。

矢が飛んできて体に刺されれば痛いのは誰でも一緒です。お釈迦様だろうと誰だろうと、痛いものは痛いし、悲しい時は悲しいのだ、とおっしゃったのです。

ただその先に違いがあります。お釈迦様は「しかし私には二番目の矢は刺さらない」とおっしゃいました。私たち一般人は、体に刺さる最初の矢だけでなく、心に二番目の矢を受けているのだ、とおっしゃるのです。

二番目の矢、というのはどういうことでしょうか。たんすで足をうった時のことを思い出してみましよう。

痛みにかつとなつて、ついついたんす自体に腹を立てなかつたでしょうか。こんな邪魔な所にたんすをおく馬鹿があるか、そう言つて怒鳴つた人もあるかも知れません。

あるいはこんなに痛い思いをしている自分のそばで涼しい顔をしている家族に八つ当たりの矛先を向けたことはなかつたでしょうか。よく考えてみると、痛みが単なる痛みで終わることは意外と少ないのです。

もうおわかりでしょう。もともとは足の小指の痛みでした。これが誰にでも飛んでくる「第一の矢」です。お釈迦様ならここでおしまいです。しかし私たちはそれだけでは済みません。次々と第二、第三の矢を作り出して、そして気がつかないうちに自分で自分の心にそれを突きたててしまつていくのです。

最初の矢より、実はこの二番目の矢がもたらす痛みのほうが大きくて、長く尾を引くことが多いのですから、お釈迦様は私達に、「第二の矢を避ける努力をしなさい」とお示しになられたのです。

お悟りというのは、日常生活を離れてあるものではありません。私達の身の回りの生活のどこを切り取つても、お釈迦様に近づくための機会が溢れていると言えるのではないのでしょうか。

綾部市 隠龍寺ご住職 児玉哲司老師

上智大学を卒業後、大手商社の海外業務を経験された後、大本山總持寺でご修行。現在はSVV(シヤンティ国際ボランティア会)会長をはじめ布教師として活躍されています。

SVV京都寺院の会
オリジナルクラフトカレンダー販売のご案内

2024年カレンダーはタイの名産「パティック(ろうけつ染め)」生地を使用したものです。タイの子どもたちや青少年の為にコミュニティ図書館活動や移動図書館活動、奨学金制度や山岳少数民族の子どもたちが通う学生寮の運営といった教育支援を行うシーカー・アジア財団の縫製部門の女性たちが製作いたしました。

シーカー・アジア財団縫製部門では、スラム地区に暮らす女性たちがタイの伝統的な生地を用いた商品作りに励みながら伝統文化継承活動にも力を入れています。

2024ろうけつ染めカレンダー
「国際ボランティアのための製品」という旨の説明書がついています。

- 価格 1枚 2,000円 ※色・柄の指定は出来ません。
- 売り上げの利益は全て、募金としてSVAIに送金致します。

【お申し込みは円覚寺まで】

仏教振興会 研修旅行

土師壽会写経部

佐藤 ゆずる

令和五年年度の仏教振興会の研修旅行に写経会員五名で参加させて頂きました。

定刻八時に約七十名が観光バス二台に分乗して福知山駅南を出発、途中休憩を挟んで十時過ぎに



世界遺産の平等院に到着しまして全員を七つの班に分けて其々案内のガイドさんが付いての行動で円覚寺は七班になりました。第一線を退かれた男性のガイドさんでしたが資料を観ながら丁寧な説明で、当日咲いてなかった藤棚でもこんな風に咲いてそれを目当てに訪れる人がいると云うように、見えている景色以外の説明や集合写真を撮る隠れスポットに案内する気配りが良かったです。十円硬貨にデザインされている鳳凰堂をバックに沢山の人が写真を撮っていました。

次にバスで二十分程の万福寺に移動しましてお坊さんの案内で境内の見学をしました。江戸時代に幕府に請われて当地に九万坪の用地を用意されて中国からはるばると隠元禅師が来られて開創されたお寺で、中国から持ち込んだ木材を使った建物が有りお経が寺内で



は中国語で唱えられています。テレビでも紹介されていますが秋には境内でランタン祭りが開催されますが中国から持ち込まれた沢山のカラフルなランタンが有りました。本堂で全員にて日本語で般若心経を唱和してから食事場所の黄龍閣に移動して遅い昼食となりました。昼食は普茶料理と云う精進料理で普通に振る舞うとい

う意味だそうです。余談になりますが日本にインゲン豆を伝えたのが隠元禅師で名前が豆の名になったそうです。遅い昼食をすませてバスで十五分程の源氏物語ミュージアムに移動しまして平等院と同じ班に分けて同じガイドさんの案内での見学です。源氏物語の最終十巻の舞台となった宇治は物語に乗って宇治市を盛り上げようと力を入れていまして以前に訪れた時とは趣向も大きく変わっていました。



庫裏の改築について

お寺の庫裏が建て替え工事をしていくのを、通りがかりでご覧になった方も多いかと思います。

地元のお檀家には何度かお話しをしておりましたが、副住



職が本山修行を終えて帰山をしてから六年経ちました。その間結婚や子供にも恵まれて同居のため工務店さんに庫裏のリフォームをずっとお願いしておりましたが、現在の建物が基準に満たない為、結局建て直すしか方法がないという事になりました。

地盤強化、裏山からの排水路や上下水道の敷設など大ごとになってしまいましたが、この際にちゃんとしておくことは次の時代の為に結果的に良かったと思っております。

屋根替えと重なってしまいました。今般お檀家へのご負担はありませんので、ご理解頂きますよう宜しくお願いを致します。

墓地管理委員会より

新年あけましておめでとうございます。令和四年度から墓地関係を担当しています。

春（四月中旬頃）の境内裏山作務は護持会役員の方に、夏（八月初旬）の土師墓地清掃では皆さんに協力して頂きありがとうございます。

墓地のゴミ置き場にタイヤや車のオイルが捨てられていたことがありました。又、空き缶やプラスチック類が捨てられています。大変困っています。

福知山市では、自然ゴミ（草木等）と一般の燃やすゴミを分けて欲しいとの事。草木以外は捨てないで欲しいです。（草木から輪ゴムを外して欲しい）

法人からのゴミの持込が厳しくなろうとしています。お墓を守るためにも、ゴミ置き場を大切にしましょう。

墓地管理総代 木下 知之

お寺の野良猫近況



未だ早春の薄ら寒い倉庫で生まれた野良ネコでしたが、無事今年二才を迎えました。暑い夏はクーラー、寒い冬はデロンギのヒーターで暖まり、一日三食おやつ付き。今でも住職以上に大切にされています。

ご寄進

土師町 芦田正勝様

ご内室お盆供養

参拾萬円

戦没者合同位牌建立のため



土師町 芦田正吾様

蒔絵お茶湯器塗り直し

(拾萬円)

